

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	アンケート	平均の食費に比べ安価の設定であり、毎日のメニューは掲示しているが、一部のご家族様は献立や食事面での不安を持たれているため、理解が得られるよう説明、改善し食事面で安心して頂きたい。	入居者様、ご家族様共に食生活に安心と満足を得る事ができる(嗜好に応じた個別の対応をしている事への理解や、ご意見や不安に感じる点は都度遠慮なく聞いて頂ける様に関係性をもつことができる)。	献立表(1ヵ月分)の公表と、ご家族様へのアンケートを行い、食事面で不安を感じる部分の詳細を探ると同時に、日々の献立等に意見やアイデアを募り、必要に応じては食費設定の見直しを図るなど食生活全般の改善、満足に努めます。	3か月
2	アンケート	猛暑の際の暑さ対策等、環境整備にはできる限りの努力をしているが、一部のご家族様は不安を持たれているため、理解を得ると共に、環境面で安心して頂きたい。	冷暖房等の環境整備に取り組み、猛暑、酷暑でも快適に過ごしていただく事ができる。	安全面でのファンヒーターから蓄熱ストーブへの移行は理解が得られているが、ヒートポンプによる冷暖房は3ヵ年計画の途中にある事の説明に不足していると思われるため、理解が得られるよう再度説明を加えた上で現状できる限りの環境整備に努めます。	2年
3	(7)	事業所全体の意見や提案は、管理者を通して代表者へ口頭、文書で行っているが、職員との定期的な話し合いの場を設け、個別の意見や提案がより業務に反映されるようにしたい。	それぞれの意見や提案が業務に反映されるように、職員個々に代表者と直接話し合える機会を設け、相互理解を深める事により、個々の問題意識やモチベーションを向上する事ができる。	事業所全体の意識統一を図れるように、個別に面談するなど、代表者と直接話し合う機会を設けられるように努めます。法人全体で話し合える場を、2ヶ月に一度定期的に設けます。	1年
4	(12)	重度化、終末期ケア対応指針や体制は、重要事項説明書において説明及び承諾を得ているが、意向確認、同意書(取り決め書)を交わす事で、より明確なものにしたい。	重度化、終末期に向けた方針を、個別に明確なものとする事で、ケアの意思統一を図る事ができる(ご家族様の思いに十分配慮した上で、入居される際にわかり易い説明を加えて、重度化、看取り支援に関する意向確認を文書で行う)。	重度化、終末期に備え、口頭の確認だけでなく、看取り支援に関して本人様、ご家族様の意向、要望と、グループホームとしての支援の方針や限界を明記した取り決め書(確認書)を作成し、同意を文書で取り交わす事をご家族と検討します。	1年
5	(13)	災害時の避難場所を、管理者はじめ職員全員がしっかりと把握できていなかった。事業所はもとより入居者様やご家族様へも伝え、災害時の安全に備えたい。	避難場所を周知徹底する事により、緊急時には速やかに行動できる。	苑の避難場所が林崎研修センターである事は、すでに全体会議で確認しているが、日頃から防災意識を持ち、情報の把握ができるように藤崎町の避難場所一覧を事務室に掲示します。	即日

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。